



あれ  
あの人



へんなもの持って  
水田に入ってる

あー  
あれね



夕口つって  
稲の種モミを  
まく道具だ

上の箱に入った  
モミはパイプ状の  
足から出てくる

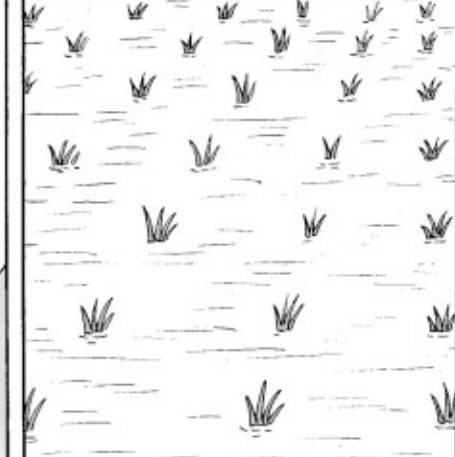
一人で均一に  
水田にモミを  
まくことができる  
便利な道具  
だったんだよ



わーっ  
ホントだ  
西野の人々は  
こうした便利な  
道具を使う  
だけでなく  
稲を育てる時期や  
育て方にも工夫を  
こらしていた



寒い北海道でも  
おいしいお米を  
たくさん収穫  
するために  
おしみなく  
努力を  
続けて  
いたんだ  
そんな西野  
の人々に  
強力な助っ人  
があらわれ  
たんだ  
助けてくれる  
人のことよ



それは  
「北海道農事試験場」  
JR琴似駅近くの  
農試公園に  
あったんだ  
その公園  
おばさんの家の近く  
わたし行ったこと  
あるよ



試験場で  
米やイモなどの  
農作物を  
寒さに強く  
味が良いものに  
するために  
品種改良を  
していた

西野の人々は  
ここで生まれた  
新品種の稲を  
手に入れることが  
できたんだ

この稲の種モミ  
を試作してほしい  
のですが

わかりました  
よろこんで  
引き受けます



農試の  
種モミは  
いいぞ  
寒さに  
強いし  
実りも  
多い

そうか  
これで味が  
良ければ  
来年から植えて  
みるぞ

どう  
だ？

う  
うまいなア

こんな  
にうまい米  
北海道でとれる  
とは思わなかったぞ



この新品種は  
西野の気候、  
土地に合っ  
ていたみたいだ

「西野米」と呼ばれ  
今のブランド米のような  
人気だったんだ



札幌や小樽で  
西野の米は  
評判になって  
いった

西野の  
新米入荷  
したってさ

食べて  
みたいなの

残念ながら  
今は  
作って  
ないの

なんだ

